

平成 25 年度 一般採用試験前期
 国語試験問題
 (人文・社会科学専攻)

(注意)

- 試験時間中は、すべて試験係官の指示に従うこと。
- 設問ごとに記載してある解答方法の指示に従い、マークセンス解答用紙又は記述式解答用紙にマーク及び記入すること。(記述式の問題は、すべて黒枠で囲った形で示されているので注意すること。)
- 古文及び漢文は、1つの本文の設問中にマークと記述の両方が含まれているので注意すること。

(マークセンス注意)

- マークセンス問題解答用紙の注意事項を確認のうえ、例にならって氏名及び受験番号を解答用紙に必ず記入及びマークすること。

例 【氏名】防大渚【受験番号】神奈川人W1234の場合

※氏名及び受験番号の記入について

	姓	名
フリガナ	ボウダイ	ナギサ
漢字	防大	渚

	受験地本名	専攻区分	番号
受験番号	神奈川	人	W1234

女子受験者について、番号のWはマークしなくてよい。

※受験番号等のマークについて

受験地本名	札幌: 01	福島: 10	
	函館: 02	茨城: 11	
	旭川: 03	栃木: 12	
	帯広: 04	群馬: 13	
	青森: 05	埼玉: 14	
	岩手: 06	千葉: 15	
	宮城: 07	東京: 16	
	秋田: 08	神奈川: 17	
	山形: 09	新潟: 18	

専攻区分	
人社	●
理工	2
性別	
男	1
女	●

番号			
0	0	0	0
1	1	1	1
2	●	2	2
3	3	●	3
4	4	4	●
5	5	5	5
6	6	6	6
7	7	7	7
8	8	8	8
9	9	9	9

- 解答方法は、択一式であり、設問ごとの指示に従い、解答用紙の解答欄にマークすること。

例えば、1と表示のある問題に対して(3)と解答する場合は、次の例のように1の解答欄の(3)にマークすること。

解答マーク欄						
1	1	2	●	4	5	

(記述式注意)

- 各問題の設問の数に注意すること。
- 解答はすべて別紙解答用紙の定められた欄におさまるように記入すること。
なお、一行に相当する枠に、二行以上にわたって記入しないこと。正しく記入していない場合には採点されないので注意すること。
- 解答中の誤字（仮名づかいの誤りも含む）は、その程度に応じて減点する。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から
掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から
掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から
掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から
掲載することができませんので、ご了承願います。

掲載 この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から
することができませんので、ご了承願います。

掲載 この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から
することができませんので、ご了承願います。

ポトラッヂ——北アメリカの先住民族の間に伝承されていた祭りの儀式。自らの社会的地位をそこで示すために、所有する貴重な財物を破壊することもあった。

マキヤベリ——イタリアの思想家。ルネサンス期に現実主義的な政治理論を開拓した。

佐倉宗五郎——江戸初期の下総佐倉藩の義民。領主の苛酷な税取り立てを幕府に直訴し死罪となる。幕末の歌舞伎にも登場する。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。罪となる。江戸前期の江戸本郷の八百屋の娘。かなわぬ恋をかなえるために放火し死罪となる。当時の淨瑠璃や歌舞伎の格好の題材となつた。

ダンテ——14世紀初頭に活躍したイタリアの詩人。

(中井久夫氏の「戦争と平和についての観察」による)

* (注) ヴィヴィッドな——生き生きとした。鮮明な。

外債——その国に居住していない者が発行するその国の債券。

菊水——楠木正成の家紋。明治期以降正成は尊皇思想の代表者とされ、太平洋戦争下には天

皇の為の自爆死を前提とした「特攻」的攻撃のシンボルとしてその家紋が用いられた。

黒社会——暴力団やマフィアなどの、社会の裏面で活動する領域のこと。

エントロピー——熱量と温度に関する熱力学上の量を示す概念。高温の部分から低温の部

分に熱量が移るという物理法則をエントロピー増大の原理と呼ぶ。

「マークセنس」

1 空欄 A に入る言葉として、本文の論旨に照らして、最も適当なものを次のなかから一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 逃避としての安定
- (2) 隠蔽としての無知
- (3) 猶予としての平和
- (4) 銃後としての自由
- (5) 抵抗としての日常

2 文中の空欄 B C にそれぞれ入る語の組み合わせとして、本

文の論旨に照らして、最も適当なものを次のなかから一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) B 社会連帯性 C 協調性
- (2) B 自由意志性 C 秩序性
- (3) B 権利制限性 C 公平性
- (4) B 共同志向性 C 凝集性
- (5) B 自己維持性 C 統一性

3

本文中での「戦争と平和」の「非対称性」に関する説明として、本文の論旨に照らして、最も適当なものを次のなかから一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 戦時下には民衆の意見は一定の方向に整えられ、人々の間の格差も殆ど存在しなくなるが、平和時には社会は複雑化し、将来に関する展望が不透明になり、個人が生き抜く上で明確な目標が見失われることも多い。
- (2) 戦争が拡大することで指導層は戦争に対する心理的抵抗を喪失し、破壊行為をエスカレートさせるのに対し、平和時には、重大な外交問題とは言えない些細な対外的摩擦によつても民衆が煽動され、戦争が誘発される。
- (3) 平和という「状態」は、ドラマティックな事件に乏しく見通しのきかないものであるのに対し、エントロピーが極端に増大し、秩序性が極端に高められた中で進行する「過程」こそが、戦争の本質的な様態である。
- (4) 戦争は、本質的に破壊と散乱に突き進む「過程」であるが、その一方で平和は、戦争という非常事態が起こらないことで自然に生まれる安定期という訳ではなく、それはともすれば惰性的で弛緩した「状態」となる。
- (5) 平和とは曖昧で多面的な「状態」であり、決して変化することのない單調で平凡な世相を生み出すものであるが、戦争はその語りやすさ故に民衆の情動に直接的に作用する、叙事詩的で論理化可能な「過程」である。

二重傍線部「免震構造」の構築と維持に関する説明として、本文の論旨に照らして、最も不適当なものを次のなかから一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 社会の安寧と秩序を保つため、政治に対する国民の倫理的要求に応える明快な政策を構築し、民意の支持を得ること。
 - (2) 自国内の情勢変化に対して柔軟に対応できる態勢を準備して、国内に蓄積された葛藤や矛盾を少しずつ排出すること。
 - (3) 自国民の批判や欲求不満を適確に処理しながら、安定的な社会システムを作り上げ、それを円滑に運営してゆくこと。
 - (4) 現実に即応できる政治体制の下で、暴発しかねない社会のエネルギーを制御し、エントロピーを低く保ち続けること。
 - (5) 同時代的には評価されなくとも、社会統治のための最適な態勢を地道に整備し、対内的・対外的な安定を目指すこと。
-
- (4) 戦時下の社会においては、失業や不況などの社会問題の存在が隠蔽され、その解決が保留される一方で、民衆は、指導層の政治的失敗を糾弾しようとはせず、戦争への責任感を喪失して、過去の平和な状態を蔑視することになる。
 - (5) 軍隊組織における軍服は、特に未熟な青年層に対する美的な訴求力を強く帶びており、平和時においても、それを身に纏った指導層が、自分たちは全く別次元に存在している崇高な人物であるという思い込みを民衆に与える。

本文の論旨に照らして、最も適当なものを次のなかから一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 戰争という非常時のみに見られる「生存者罪悪感」という異常心理に基づいて、戦時下には困難を耐え抜く意識が民衆の内部で増幅されるために、その社会は一見、平和時よりも道徳的であるかのような外見を呈すことさえある。
- (2) 現在の傾向を未来にも永続的に投影する「外挿法思考」は、自己存在を意義付けてくれるようと思える要素が社会の中に見出し難い平和時には、自分が社会に虐げられ、疎外されているという被害感を民衆に与える要因となる。

- (3) 平和運動の展開において語り継がれる「戦争体験」は、次第に単純化された定型の物語になってしまいがちなので、平和という恒常性が破綻してしまうまでは、記憶すべき物語としてのその価値が正当に評価されることはない。

- (4) 戦時下の社会においては、失業や不況などの社会問題の存在が隠蔽され、その解決が保留される一方で、民衆は、指導層の政治的失敗を糾弾しようとはせず、戦争への責任感を喪失して、過去の平和な状態を蔑視することになる。

〈記述式〉 現代文 (一) (六) 次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から
掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から
掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から
掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から
掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から
掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から
掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

(磯前順一氏の『喪失とノスタルジア』による)

* (注)

『遠野物語』——民俗学者柳田国男が、岩手県遠野出身の佐々木喜善から聞いた同地の伝説や民話を記述した著作。

柳田——柳田国男。詩人、民俗学者。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から

これまで見てきた『先祖の話』——筆者は「この前の章で、昭和二十年発表の『先祖の話』において、柳田が家の祭祀を軸とした祖靈信仰を体系化し、そこに日本人の伝統的な共通性を見出した」と論じている。

山人——柳田が『山の人生』などの著作でその実在を想定した、古くから山間に住むとされる異形の人々のこと。

吉本隆明——批評家。戦後日本の思想界に大きな影響を与えた。

そつだ話——『遠野物語』において、「うだそうである」などと聞き書き的な語り口で示された話のこと。

叙情詩に託して歌われた恋愛感情への決別——柳田は青年期の明治二十年代には短歌や新

体詩を多く創作、発表していたが、明治四十年代に自然主義が主流になった以降は、文壇から離れ学者の道を進んだ。

井口時男——評論家、文学研究者。柳田の思想の本質とレトリックについて多く論じてい

紀伝体——史実を重層的に捉え、歴史上の人物に焦点を当てて、多元的な視点から歴史を語る叙述形式のこと。

（記述式）

十五年戦争——満州事変から日中戦争、太平洋戦争へ至る流れを連続した現象として捉え

る視点から見た、それらの紛争及び戦争の総称。

酒井直樹——批評家。「日本」というカテゴリーを自明化する言説を批評的に考察した論考

を多く発表している。

(一) 片仮名傍線部(1)～(5)について、それぞれ漢字二文字に直して記せ。

(1) ハツシヨウ (2) カンパ (3) セイヒ

(4) オウリョウ (5) モツケイ

(二) 波線部(1)～(5)の漢字について、それぞれその読みを平仮名で記せ。

(1) 魁 (2) 正鵠 (3) 純余 (4) 乖離 (5) 賦与

(三) 点線部(あ)～(お)について、それぞれその読みを平仮名で記せ（漢字部分の読みだけを記入すること）。

(あ) 邶ら (い) 長けた (う) 壇き

(え) 惹き (お) 紗ぎ

(四) 二重波線部(イ)の内容を、共同体としての日本をめぐる意識という視点から言い換えた箇所を、二五字以上三十字以内で本文中から抜き出せ。

(五) 本文の論旨に照らして、最も適当なものを次からひとつ選び、その番号を記せ。

(1) ノスタルジアとは非在の対象に対する否応のない想いを強力に喚起する感情であり、その対象と同じ共同体に実際に属してその感性を共有することを求めるものであるために、その感情は分析したり論理化できるものではない。

(2) 柳田は、自らの学問を民俗学と呼び始める以前には、非合理的で異質なものが喚起する不安と恐怖を近代社会の内部に取り入れることで、近代的自我の自明性を相対化し、現実世界を新たな形で認識する視点を呈示していた。

(3) 『遠野物語』は、近代合理主義とは相容れない異界の領域を、近代の論理に同化させることなく、その他者性を維持したままで物語化したのだが、現代の作家村上春樹も、そのような領域に対する言及不可能性を表現している。

(4) 田山花袋と柳田は、近代的自我に対するその姿勢に共通性があるが、花袋の作品に見られる時間意識が古代に遡及する線条的なものであつたのに対し、柳田の場合、それは明確な年代で区切ることなど不可能な類のものであった。

(5) 制御し難い死を鎮めるものとして柳田が『遠野物語』で描き出した「弔う」という行為は、資本主義の浸透の結果、もはや地縁的共同体の中では自己同一性を見出し得なくなつた日本国民の不安を解消する象徴的行為であった。

(六) 二重波線部(ロ)に、柳田が固有信仰論において語ろうとした家族とは、そして先祖とは、彼の言葉のなかにしかない、空虚な言説であり、とあるが、筆者はなぜそれを「空虚」であると断定しているのか。本文全体の論旨を踏まえて、解答欄の形式(解答文の主語は指定してある)に合わせた形で、その理由を五十字以上六十字以内で説明せよ。ただし、解答文の中に「異質性」という語句を必ず用いること。なお、解答に際して本文中の語句は用いてよいが、本文からの抜き出しのみ、あるいは本文から抜き出した文章を組み合わせただけの解答は認められない。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から
掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から
掲載することができませんので、ご了承願います。

(浅井了意の『かなめいし』による)

* (注) そのころ——寛文二年(一六六二)五月一日、京都が大地震に襲われ、建物が倒壊、死者が

多く出、以後も余震がやまなかつた。また、被害は現在の滋賀県や福井県にも及んだ。

なる——地震。

うつつ心——夢心地。

熊野比丘尼——熊野権現のお札を売り歩く尼。

癪——本来はハンセン病と同義だが、転じて人を罵つて言つ語。不適切な表現だが、原文の

状態を保存する立場からそのままにした。

焼——人を罵つて言つ語。

来世——江戸時代、夫婦の縁は生まれ変わった来世まで続くと言われた。

隙を開けて——離縁して。

ふりくすべ——責める。「くすべ」は本来、燃やして煙を出す意。

わごぜ——あなた。女性を親しんで呼ぶ時に使う。

なゆ——地震。「なる」に同じ。

けしかる——並はずれた。

ぞめき——騒ぎ。

マークセンス

6

傍線部(1)「さやうに」の具体的内容として、最も不適当なものを次のなかから一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 五月四日は重大な運命の一日となる。
- (2) 地震で大地が裂け一面泥の海になる。
- (3) 地震で火の雨が降つて全て焼け滅ぶ。
- (4) この世が滅び去る重大な局面となる。
- (5) 都中の者が血の涙を流す惨劇となる。

7

傍線部(2)のように、「妻の女房」がひどく怒った理由を、「ある町人」は妻の何だと考えているか。最も適当なものを次のなかから一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 誤解
- (2) 狹量
- (3) 嫉妬
- (4) 愛情
- (5) 性格

8

傍線部(3)のように、「ある町人」は、正確に地震の様子を語ることができたのか。その説明として最も不適当なものを次のなかから一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 地震の被害のあつた諸国を回つたから。
- (2) 仏道修行する気がおこらなかつたから。
- (3) 離婚の後もしばらく移転を続けたから。
- (4) 離婚のため地震への興味を持つたから。
- (5) 地震の被害を詳細に見聞していたから。

（記述式）

(一) 空欄 A — C

に入れるべき言葉を、次の選択肢の中からそれぞれ一つずつ選び、番号で記せ。

(A) (1) 例 (2) 元 (3) 案 (4) 噎 (5) 左

(B) (1) ふらるる (2) しからる (3) きらはる

(4) ださるる (5) なじらる

(C) (1) 如月 (2) 水無月 (3) 長月

(4) 神無月 (5) 霜月

(二) 二重波線部(イ)～(ホ)を現代語訳せよ。

(イ) 色 (ロ) ふせり (ハ) つらつら

(二) 是非なく (ホ) ためし

(三) 波線部の「人たがへ」とは、誰と誰を間違えて誰がどういう行動をとったのか具体的に記せ。

（記述式）漢文（一）次の文章を読んで、後の設問に答えよ。ただし、設問の都合上、返り点・送り仮名を省いたところがある。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

（『墨子』による）

*（注）公孟子——未詳。儒者と目される人物。

子墨子——いわゆる墨子のこと。子はいずれも尊称。

巫——みこ（神事を行い、神意を伝える者）。

余縉——多くの食糧。

取——嫁として迎える。

筮——うらない。

其功亦多——原文は功の下に善があるが、設問の都合上、削除した。

◀マークセンス▶

9

傍線部(1)～(3)の文章は、(a)疑問、(b)反語、(c)詠嘆のいずれであるか。

その組み合わせとして最も適当なものを次のなかから一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- | | | |
|-------|-------|-------|
| (1) a | (2) b | (3) c |
| (1) b | (2) a | (3) c |
| (1) c | (2) b | (3) a |
| (1) a | (2) c | (3) b |
| (1) b | (2) c | (3) a |

10

本文に示された墨子の生き方は、「墨突黔くまづ」（墨子の家の煙突は黒くならない）ということわざと付合する。このことわざが示す具体的の意味として最も適当なものを次のなかから一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 墨子は家をあけることが多く、美人の妻とも折り合いが悪くなつたため、妻に食事を作らせることができなくなつたことを示す。
- (2) 墨子は東奔西走、中国の各地に出かけていつてその思想の普及と実践に務めたため、家で食事をする暇すらなかつたことを示す。
- (3) 墨子は学徳の高さが評判となり、各地から大勢の人が押しかけたため、家では炊事をして食事をする場所がなかつたことを示す。
- (4) 墨子は為政者から体制の転覆をはかる危険思想家と見られていたため、家にいても気配を察知されないように務めたことを示す。
- (5) 墨子は巫から煙を出すことは不吉なことだと言っていたため、家では暖を取ることも煮炊きすることもなかつたことを示す。

◀記述式▶

(一) 波線部(1)は墨子の行動を暗に批判したものと受け取ることができる。

それは具体的にどんなことか。その意味を示す言葉を四字以内で抜き出せ。

(二) 波線部(2)は「此に一生有り」と訓読されるが、このように訓読するための返り点を施せ。

(三) 空欄には波線部(a)と波線部(b)を並列して結び付ける漢字一字が入る。最も適当なものを記せ。

(四) 波線部(3)はいくつかの解釈が可能と思われる。その解釈の一つを、まず(a)その主語を記入した上で、(b)波線部(3)を口語に訳して示せ。